

# なら 植防ニュース

## 平成 27 年度農薬安全使用講習会

3月11日に奈良県橿原市リサイクル館かしはらで研修会が開催され、川島和夫氏（丸和バイオケミカル株式会社）、平山喜彦氏（奈良県病害虫防除所）の2名の講師を招いて講演が行われた。

始めに平山氏から「今年度の病害虫の発生状況」の講演が行われた。

今年度は全国的に高温多雨となったため、病害の発生が目立ち、べと病やいもち病が全国で多発した。県内ではこれらに加え、菌核病や灰色かび病も多く発生した。べと病は年末の多雨や暖冬により、今年も発生が早まる可能性が高いと注意が促された。

水稲いもち病は中山間地域では例年発生が見られるが、7・8月の多雨により、平坦部でも発生が認められた。このいもち病では QoI 剤の薬剤耐性菌が、西日本を中心に拡大しており、今年度初めて県内の1ほ場で発生が確認された。局所的な発生だが、今後注意していく必要がある。

薬剤耐性菌は他にもイチゴ炭疽病・灰色かび病で発生が確認されている。薬剤耐性菌の発生を抑えるには、同じ薬剤や同系統薬剤の連用を避ける必要がある。しかし、農薬の種類の多さや系統分類が複雑になっ

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒 634-0813 橿原市四条町 8 8  
奈良県農業研究開発センター内  
TEL0744(22)8151  
FAX0744(22)8152(専用)

目	次
◎平成 27 年度農薬安全使用講習会	1 - 2
◎第 19 回日本バイオリジカルコントロール協議会講演会に参加して	3
◎登録失効になった農薬 (FAMIC の失効農薬情報より)	4

ており、薬剤防除指導が難しくなっている。そこで、FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会）により分類された、同じ特徴を持つ農薬の系統別分類表の利用が進められている。この分類番号や耐性菌の発生リスク等が平成 26 年度の病害虫防除指針に記載されているため、参考にして農薬散布を行なうことが良い。

次に、川島氏から「展着剤を上手に使うための基礎と応用」について講演が行われた。

現在、日本では展着剤として 63 品目が登録されており、界面活性剤が 9 割を占めている。地区別の展着剤出荷数量は北海道が最も多く 650 トンで畑作全般に使用されており、全出荷数量の約四分の一を占めて

いる。その後は群馬県 331 トン、青森県 143 トン、静岡県 103 トン、長野県 95 トンと続いている。本県では 8.6 トンと少なく、全国的にみても展着剤の使用は少ない。それに比べ、アメリカでは展着剤が多く利用されている。一般展着剤とは異なる、農薬の効果を増強する物質であるアジュバント（機能性展着剤）の開発が進んでおり、このアジュバントの添加を推奨する農薬も多くみられる。除草剤では 244 剤中 173 剤（約 71 %）、殺虫剤では、143 剤中 39 剤（約 27 %）、殺菌剤では 65 剤中 18 剤（約 28 %）が推奨されている。これは、日本とアメリカでの散布条件の相違が関係している。日本の慣行的なノズルが粒径 100 $\mu\text{m}$  以下に対し、アメリカのノズルでは粒径が 100 ~ 700 $\mu\text{m}$  と大きい。アメリカでは、高濃度少量散布が基準でとれているので、畑作の地上散布量が約 25L/10a と日本の約 100L/10a と比べて少なく、効率的に作物に付着させる必要があるため、展着剤の使用が推奨されている。

日本国内の出荷量は 10 年ほど横這いだが、展着剤の種類は変化している。アメリカと同様に、日本においても近年、アジュバントの開発が進められている。アジュバントには、農薬の効果向上作用、散布水量・散布回数の低減化、低濃度活用等の効果が期待されている。例えば、北海道美幌地区農業改良普及センターにおける試験では、コムギ雪腐病において以前から使用のある固着剤や一般展着剤に比べ、アジュバントを加えると発病度が抑えられたという報告がある。また、神奈川県農業技術セン

ターにおけるメロンうどんこ病の試験では、展着剤の種類により、慣行の 3 回薬剤散布と同等の効果が 2 回の散布で得られ、散布回数が低減できることが報告されている。

しかし、このような効果は、アジュバントで期待される効果であり、一般展着剤では混用性や消泡性以外は期待できないため、高濃度での使用は厳禁である。また、葉面散布剤に界面活性剤成分が内添されているため、展着剤を加えると薬害や塩害のリスクが高まる可能性がある。展着剤は様々な種類があるので、目的に合わせて選択活用しなければならない。

展着剤の今後の課題と対応としては、リスクの少ないアジュバントの開発、普及面では適用可能な農薬と作物の整理、散布機器も含めた施用技術の構築が必要となってくる。



講演風景 上：平山氏 下：川島氏

## 第 19 回日本バイオロジカルコントロール協議会講演会に参加して

奈良県病虫害防除所 浅野 峻介

本講演会は平成 28 年 3 月 2 日に東京大学 伊藤国際学術研究センターで開催された。講演テーマは「輸出に向けた防除体系の確立」および「各地域での IPM の取り組み」であった。

長崎県病虫害防除所の平山氏から、イチゴの台湾への輸出に向けた取り組みの紹介があった。

台湾輸出は、欧米と比べて輸送コストが低いが、輸入農産物に対する残留農薬分析が他国より厳しいことが知られている。長崎県では農薬残留超過を防ぐため、日本と台湾の残留基準値を比較し、超過の恐れのある剤については散布後の残留値を継続的に計測し、これらのデータを基に輸出向けの防除暦を作成し、県内農家圃場で実証試験を実施している。その中で、病虫害の多発年には防除暦を超過した薬剤散布が必要になり、残留基準値超過が危惧されることが課題となっている。輸出する主要品種は「ゆめのか」、「さちのか」で、台湾での価格は 1 パック 2,000 円が中心であり、台湾産の 800 円より高値で取引されている。台湾産は傷みが多く品質的にも良くない。台湾の市場関係者からは 2L、3L の大玉、傷みがない高級品を求められている。平成 24 年から輸出関連の事業が始まっており、輸出に否定的であった生産者、JA も近年は前向きな意見を寄せるようになっていく。

アリスライフサイエンス株式会社の中村氏からは、メロンの MYSV の媒介虫であるミナミキイロアザミウマ（以下ミナミキイロ）の天敵による防除体系の紹介があった。

高知県では通年でメロン栽培が行われており（抑制 8～12 月、促成 11～3 月、後作 3～7 月）、伝染環を絶つことができないため、MYSV による黄化えそ病の被害が問題となっている。ハウス内のすべての株で収穫ができなくなり、被害額が 500 万円になった生産者もいる。天敵としてスワルスキーカブリダニ（以下スワルスキー）を放飼し、特にミナミキイロの密度が高くなる抑制栽培での防除を徹底することがポイントとしている。スワルスキーはキュウリでは主に生長点、脇芽で増殖するが、メロンではそれらの部位は切除されている。そのため上位の雄花を残すことで、その中でスワルスキーを増殖させ、さらに花粉が落下することで下位葉での増殖を促進することができる。ただし、これらの花粉はミナミキイロの餌にもなるため、ミナミキイロの発生を薬剤散布等で抑えてからスワルスキーを放飼し、増殖を図る必要がある。天敵による媒介虫の防除では、ウイルス感染を抑えられないと思われがちだが、ミナミキイロは幼虫期に MYSV 獲得し、その後成虫になって初めて伝染能力を持つ。ウイルス獲得と伝染能を持つまでに時間がかかる上に、スワルスキーは幼虫から捕食していくので感染抑制効果があると考えられる。

## 登録農薬失効情報(2016. 1. 1~2016. 2. 29)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名	失効日
<b>殺虫剤</b>				
18053	エトフェンブロックス・チオシクラム粉剤	エビセクトトレボン粉剤 20DL	三井化学 <sup>ア</sup>	2/12
21178	デンブン液剤	デンネンムシトール	保土谷 <sup>アガ</sup>	1/7
<b>殺虫殺菌剤</b>				
16264	カルタップ・BPMC・トリシクラゾール・バリダマイシン粉剤	パダンバッサバリダビーム粉剤DL	住友化学	2/27
21263	フィプロニル・プロベナゾール粒剤	Dr. オリゼプリンス粒剤 10H	Meiji Seika	1/28
22022	イミダクロプリド・フィプロニル・プロベナゾール粒剤	ビルダープリンスアドマイヤー粒剤	Meiji Seika	1/28
22026	フィプロニル・オリサストロビン・プロベナゾール粒剤	プリンスオリゼメート嵐5粒剤	Meiji Seika	1/28
22065	ジノテフラン・フィプロニル・プロベナゾール粒剤	ビルダープリンススタークル粒剤	Meiji Seika	1/28
22218	フィプロニル・オリサストロビン・プロベナゾール粒剤	Dr. オリゼプリンスエース粒剤	Meiji Seika	1/28
<b>殺菌剤</b>				
15374	プロシミドン・TPN水和剤	ホクコーダコレックス水和剤	北興化学	2/18
17162	フェナリモル・有機銅水和剤	オキサシン水和剤	加ネ <sup>ヨ</sup>	1/19
19973	アゾキシストロビン・プロベナゾール粒剤	アミスターオリゼメート粒剤	Meiji Seika	1/28
20074	プロベナゾール粒剤	側条オリゼメート粒剤	Meiji Seika	1/28
<b>除草剤</b>				
17211	シメトリン・メフェナセット・MCPB粒剤	クロアSM粒剤	ハ <sup>イ</sup> ル	2/27
18058	グルホシネート液剤	クミアイ ハヤブサ	ク <sup>ア</sup> イ化学	2/18
21204	ドレクスレラ モノセラス剤	タスマート	三井化学 <sup>ア</sup>	1/28
21211	インダノファン・ピラゾスルフロンエチル・ベンゾピシクロン粒剤	ボス1キロ粒剤	日産化学	1/28
21213		SDSボス1キロ粒剤	イ <sup>ス</sup> アイ <sup>ス</sup>	1/28
22574	イソウロン・DCBN・DCMU粒剤	Kワイドウェイ粒剤	白元 <sup>ア</sup> ス	1/20
22578	デスメディファム・フェンメディファム・メトラクロール乳剤	ホクサンベタダイヤA乳剤	ホ <sup>ク</sup> サ	2/3
23188	シアナジン・ターバシル・DBN粒剤	クサフージキング粒剤	キ <sup>ン</sup> ガ園芸	1/16
<b>その他</b>				
18902	プロジアミン複合肥料	日産テマナックス	日産化学	1/25
19915	ジチオピル複合肥料	プラントプラス	日産化学	2/10
6743	生石灰	マルキタ印ポルドー液用粉末生石灰	北上石灰	2/27